

バスケットボールにおける「ゲームの流れ」に関する研究 ーファストブレイクに着目してー

濱西 尊博 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 吉川 文人

キーワード：流れ, ファストブレイク, ボールの所有転換

1. 緒言

バスケットボール競技において,試合の優勢,劣勢を示す表現として試合の流れという言葉が使われている.先行研究では,プレーヤー数の変動やボールの所有転換に着目し,勝敗及び試合の流れに関して検討されている.このようにゲームの流れについての研究は行われているが,攻防の周期性の変調が見られるファストブレイクに関連付け,ゲームにおける流れを構成する要素については詳しく検討されていない.そこで本研究では,ファストブレイクの起点やその成否に着目し,「試合の流れ」についての基礎的資料を収集することを目的とした.

2. 研究方法

関西学生バスケットボール男子 2 部リーグ戦 1 次リーグ本大学 8 試合を対象に,ビデオ分析を行う.

吉井²⁾ のボールの所有転換を使用し,内山¹⁾ のファストブレイクの定義を用いて,クォーター (以下,Q と略す) 毎のシュートの攻撃回数,成功回数と各 Q 毎の得点の関係性に着目して,データを集計した.

3. 結果及び考察

図 1,2 から見て取れるように全体的に攻撃回数,成功回数に大きな差がない場合,得点に差は見られなかった.また,図 1,2 の 2,3 Q を比較すると攻撃回数の多さに対して成功回数が少なければ得点は伸びておらず,成功率の高さが求められることが分かった.成功率の高さがスコアを大きく伸ばし,「試合の流れ」に関与していると考えられる.

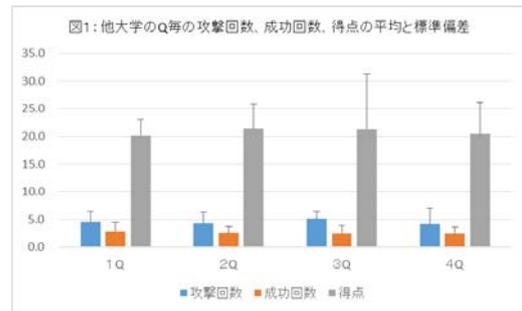


図 1 : 他大学の Q 毎の攻撃回数,成功回数,得点の平均と標準偏差

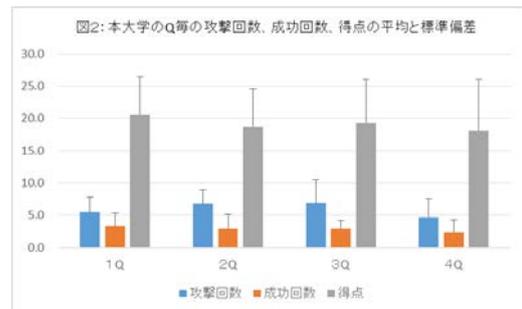


図 2 : 本大学の Q 毎の攻撃回数,成功回数,得点の平均と標準偏差

4. まとめ

本研究では,ファストブレイクの起点やその成否に着目し,「試合の流れ」について検討を行った.成功率が相手よりも下回っていれば,スコアは下回り,相手に「試合の流れ」を持っていられる傾向が見られた.

引用・参考文献

- ・内山 治樹 (2004) バスケットボール競技におけるチーム戦術の構造分析 スポーツ方法学研究第 17 巻 第 1 号
- ・吉井四郎 (1987) バスケットボール指導全書 2 基本戦法による攻防